

1. 幼児・児童における未来型能力	必要な能力	生じ教育におけるICT活用能力
	なぜ未来型能力か？	ICTの目覚ましい発達に対する将来を切り開く能力
2. 幼児・児童における未来型能力の育成	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	ICT環境が不十分である
	育成方法の提案・実施	子どもたちにコンピュータに触れさせるところから始め、コンピュータに依存しない多様な保育環境のもと、知的な内容やリズムなどの教材を活用することが可能である。
3. 未来型能力を指導できる指導者育成	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	幼児の能力開発に寄与するソフトの必要性
	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	<p><幼稚園におけるICT活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全ての園において、インターネット接続のできるパソコンを最低1台は所有 ・主に、保育や子ども管理のために活用 ・園児が自由に使えるコンピュータがあると答えた園は全体の7.9% ・TV会議システムや教育支援の補助教材として携帯ゲーム機の利用について→必要性がほとんど感じられていない状態。
		<p><保育所におけるICT活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての園において、インターネット接続のできるパソコンを最低1台は所有 ・主に事務処理に使用 ・保育にコンピュータを採り入れている園は全体の12% ・幼児教育におけるPCの必要性はあまり感じられていないようであった。
		<p><イギリスの保育園・小学校でのICT活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての園において、インターネット接続のできるパソコンを最低1台は所有 ・主に、こどもの管理のためにコンピュータが利用 ・全ての園でコンピュータを教育・保育の手段として利用していると回答した。
	育成方法の提案・実施	大学の保育士養成課程における教師主導型の講義と、学生が演じる模擬保育活動(学生が指導者役と子ども役に分かれ、体育遊びの模擬保育活動を実施する)とに、インターネットを利用したテレビ会議システムを導入した実験授業
育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	<p>教師主導型の講義(憲法)</p> <p>:2つの受講場所の間には、学生の授業内容の受け止めに小さいとはいえない差がある →テレビ会議システムによる複数の教室における授業で、学生から同じ反応を得ようとすれば、場の設定に相当な工夫が必要</p> <p>模擬保育活動</p> <p>:実践的な観察力を学ばせる場としては、雰囲気のポイントからロールプレイによるマイクロティーチングはよい方法といえる。⇔授業の受け止めは、3者で微妙に異なり、指導者が子どもと観察者の中間的な評点をつける傾向が見られている。</p>	